MYSTERYDOKUSHOANNAIMYSTERYDOKUSHOANNAIMYS

ミステリ読書案内

２０２２．９．２９　発行元
第 401 号　伊藤　剛
https://mystery-dokuan.com

MYSTERYDOKUSHOANNAIMYSTERYDOKUSHOANNAIMYS

『ミステリ読書案内』400号発行記念特集

私の求める「ミステリ」とは？2

前号４００号に引き続き、「私の求めるミステリとは」について触れていこう。前号では主に「ミステリに感動を求めすぎないように」という小説作りの発想や描写の表現方法について書いてきた。今回は…。

「謎」の追求をメインに

私が求めるミステリを簡単にまとめてみよう。①私立探偵型のハードボイルド、②探偵役が明確な本格ミステリ、③刑事が事件を追いかける警察小説、④日常の謎のミステリ、といったところか。

ポイントは、「謎」の追求を物語の中心に据えていること。①のハードボイルドも、最近の作品は暴力的だったり、猟奇的だったり、怪奇的だったりと強烈さを売り物にしているものが多い。派手な銃撃戦をしなくてもハードボイルドは書けるのに…。依頼人の願いに沿って尋ね人を探す旅でよいのだ。

②本格ミステリは、そもそも謎がなければ存在しないパターンなので、どんな形でもよいが、私は名探偵ものが好きだ。探偵役が明示されているものが安心して読める。

刑事の背負っているものは不必要

③の警察小説。最近は捜査する刑事が背負っている弱点や内面の葛藤などを前面に打ち出す作品が多くなっている。「人間性の追究」などと有難がる傾向もあるようだが、私は必要ないと思っている。捜査側の抱えている心情の推移は文章の中に書かなくてよい。行動と会話の中に現れているのだから。

マクベインやシューヴァル＆ヴァールーの描き方がよいのだ。刑事は個人で、集団で懸命に事件の解明・解決を目指してほしい。

④日常の謎系のミステリは比較的穏やかな設定の作品が多いので、私にはピッタリだ。

「巻き込まれ型」やノワールは好みでない

私が苦手なのは「巻き込まれ型」のミステリ。まったくの一般人が知らず知らずのうちに犯罪等に巻き込まれ、訳が分からず、あちこちに振り回されて不安感が膨れ上がるサスペンス。以前で言うとフランスミステリによくあるパターン。

「ノワール」と呼ばれる、素人が悪の方向に落ち込んでいく話も私は賛成しない。ミステリはエンターテインメントなので、「悪意」だけに終始するストーリー展開は、読もうとする意欲を失わせる。読了後「面白かった。次も読みたい」と思わせるようでなくては…。

女性作家の作品に多いのだが、登場人物が頭の中で考えていること、心理の内面を直接の言葉で表現するのはやめてもらいたい。多くはロジックではなく、思い浮かんだ感情的な「思い込み」「想像」を書き綴っているだけなのだから。

キャラクター小説に流れないこと

「キャラクター小説」の流れが生まれている。私はこれにも反対する。「ミステリの求めるもの」とは違う方向に読者を引っ張っていってしまう恐れが大きい。

イケメンで、美少女で、頭脳明晰、天才、性格はやや意地悪っぽいところもあるけれども…。コミック的な発想や有名スポーツ選手、タレント、モデル…などの持て囃される側面のみに注目するのは、良くない方向だと思う。世の中、そんなに単純ではないのだ。

今重要なメッセージは「誰もが自分の人生をしっかり生きること」。安易な方向に流されてはいけない。自分自身の生き方を自分で考えなくては。他の人に惑わされる必要はない。確認したいのは「一人一人を大切にすること」であって、「強いリーダー」「英雄の出現を願望する」という「他人頼り」は今の世の流れに逆行するものだと思う。

《私が求めるミステリの例》　**島田荘司『奇想、天を動かす』**　「本格ミステリ」の代表的な作品として取り上げた。１９８９年カッパノベルス。当時、作者は「本格ミステリー論」を展開中で、その実作例として本書は書かれた。奇想天外、破天荒な設定でありながらもロジックはしっかり組み立てられている。

最初に描かれている昭和３２年の北海道・札沼線の夜行列車内の出来事で鮮やかに印象に残る。ほとんどの乗客が眠っている車内をピエロの姿に扮した男が必死に踊りながら無言で通り過ぎていく。無音の世界に近い。不気味というか、通常では起こるはずのない場面。やがて銃声がして、トイレにはたくさんのろうそくとピエロの死体。でも駅近くになってピエロの死体は消えてしまう。この後は平成元年の話になる。浅草の商店街で殺人事件が起きる。浮浪者風の老人が４００円の菓子を買う。消費税の１２円を払わなかったので、追いかけた商店の人がナイフで刺されて死亡したのだ。警視庁捜査一課の吉敷竹史が担当となるが、老人は氏名も理由も話さずに完全黙秘の状態になる。この事件の背後に隠されているものは何か。過去を遡る吉敷の執念の捜査が進められていく。「果たして結末にたどり着くのだろうか？」…でも納得できる解答が示されるのだ。